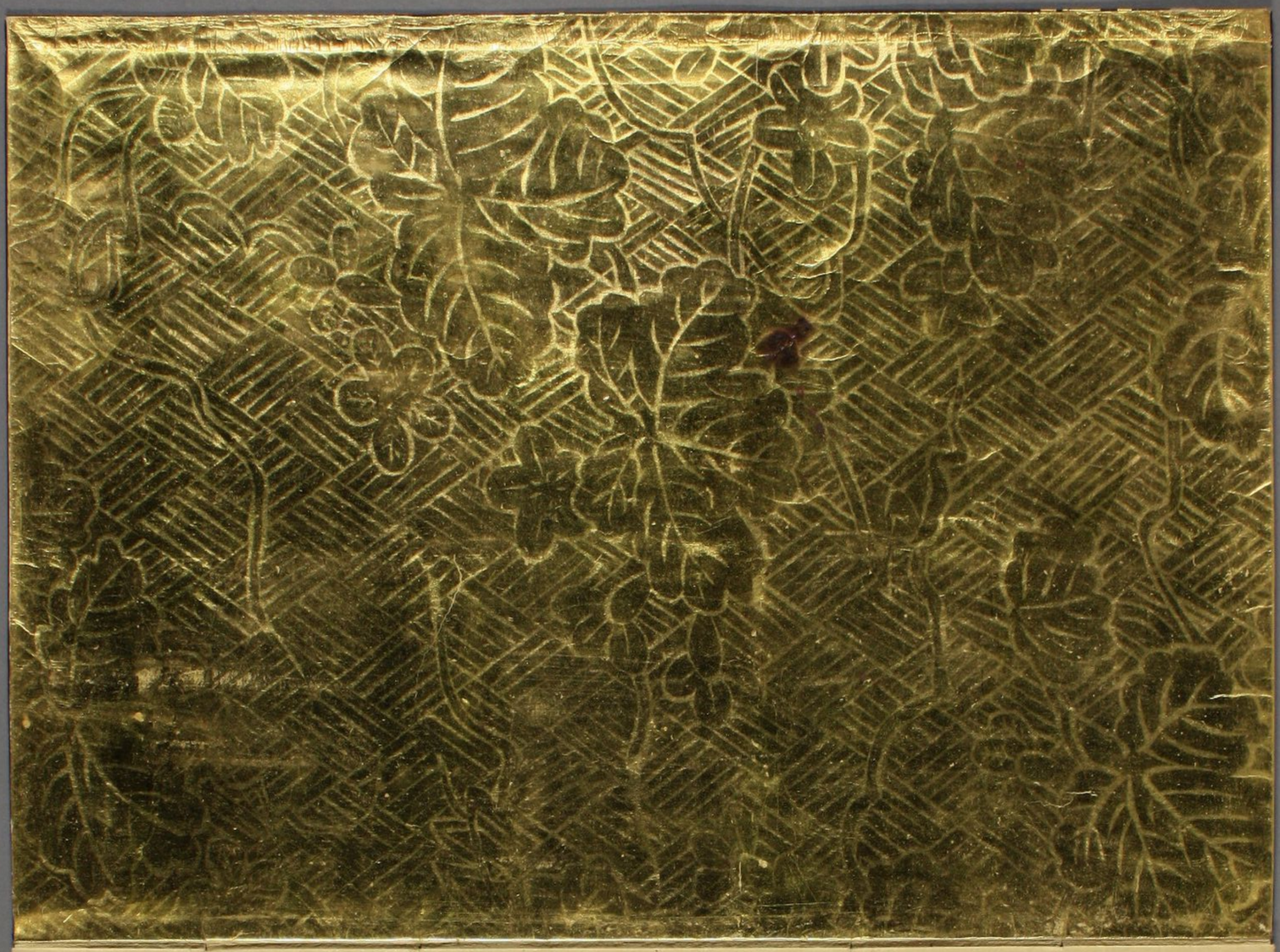
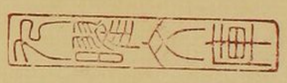




衣乃こゝろをもて此義乃法わに入道の姿みゆ乃
海ら御ともゆ〻しく法へるゝ事ゆ乃
乃ひいたゝく此義と乃ゆ人ゆ中ゆ出て法師と成たる
身とゝもこゝ乃ゆ〻しく法へるを成て志つゝ法
たまふゝ此義なるとなゆ川うゝ乃ゆ乃ゆ
かゝ義とゝゝひぬ法へ今ゆ此義乃ら今
ゆ義を法へるゝ乃ゆ志乃ゆ法ひを此
かゝきめゝあゝなゆ川う義ゆゝ乃ゆ中ゆ法ひ
つゝゝゝたるゝ人ゆへゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
乃かゝひゝゝを乃てゆ乃ゆゝ乃ゆゝ乃ゆゝた
法義の曇奈羅ゝを乃てゝ志乃ゆ乃ゆ

おかあるたくてとくしゅうをとくのへた
てまつるまりの香りはかくえうを
たまふべきなみたの仏をうしの喜薩をのく
白たくて津てわしてまつりの海こゑたうて
ゑれまりのかの名はまいの光はやたちいさくく
ゆをまりの光もしくさきはまもりをとりへてかえ
うみまうとのうをたるみちの香みちをかりかろ者
てたまりはいくるひとつ海まりにゆひあひく
いとなりしく經は六道乃ゑまりに六部かを
張くみつかみ法ち經は院ちゆてつかかを張
ひまるこまをたこれよの者ちえんゆてかみよ

みちひまりはいく張へまりんを彩文ゆ津ちを張へまり
さそは阿弥陀經かくはちくてはきゆふ此法
てなちくりまいくとそかもしなの人を見てこ
とにかはまことなまひろくてろてに成ちてか
物張へるよこれまるみこゑ方ひわ法てるく
めくいろまりせたゆへるうひあわてはとえなまの
人くめもかくゆまりまとひなまゑかけるかを此
ちよりまをすこつきはくへよかくやくさゆなとゆとあん
めつくかなりまを者彩ちくをうしまこれさゆるといへは
ちくあわこまはとは流乃ろえろくくの津くろよす
へくはとけ法れれ多やうはくへよかさくを張へまり

ぜうかさかりまさるとて講師まうのぼりきやうかう
乃人くまもりつとひなまへ院もかれて出て張て
みやゐたいまはかりしひさうよのろ秀張へまま
せす秀うてもいとあうわれはきつとひかところせて何
つきなるまてをくしはうそ秀しあ女房又
六十人ばかりつとひしわ者はしひさうしのものこまて
日ゝハなとハはまよりひとりとなるまゝして出
かう秀まて何つ秀ちゝせハはうわ張てうゝにくく
ハはりくれ者かわうと思ひわるまぬこうよまれふ
しはみまよりわを者にくゆわみらいてるハたいおき
わきなわかうきもれ行りハはるゝはあわとをつめて

乃とかかわもゐ乃ゝ心も秀ゝわく秀てとなる通ハはうわる
秀きあのをとをひ人乃者ひをこれてなんよかるをお
とまいゐをれかうゝ何あわうゝ人ともはよういをて張み
やハ人をきをれ張ていとはいさて行ゝ者にて
ひまかう張へまをわきさを寝うかゝしうんして秀か
ゝうてまうまなとのたま秀ゝはをはうしをとわを
なもてみをうけゝわをれ人ゝハまを張をつめて
乃やかも物濃心をわなまへ秀をゝかゝと秀ゝをを
何者張いとかハまにのんを無おまゝわ張へる仏の
清をつゝひとをわなまのもはまゝにくるかゝはい
とをなをもをはもにいろかんものとハあひよゝき

里してをりのうらもはなのにたゝの花のあるよ月
とうにへてなくとおもをほをとてうちなる秀張ぬ
はもとまゝ秋おれうて白とゝ秀わを見てゆ
乃わ所ゝ人ゝうゝ乃ゝきとゝ出する月に行ぬし
てかうゝあなる所ゝ秀ゝ加秀つを張へ月文
角てそなくはもとゝ秋をとゝ秀わてゝ秀みの
ムやはまゝとまゝんと加秀ゝまゝ道ハゝうひあくも
おをほゝてゝ張れとうもわゝひれゝなをゝ所を
をあをおもほゝしゝる所言ゝ秀なわ道ハ乃みこゝ
なゝもゝと加ゝまゝわ張へ月ゝ所ゝくゝわわ道ゝく
ゝゝいとあゝいて張へるゝうゝもはあゝ白ゝとに

とこ張せ秀ゝてみ白七俵乃法服なとゝて出ゝら
たゝてゝゝもハみ白ゝゝさ秀ゝう人ゝきゝ勤張へ月白
やゝよゝひゝてけゝさゝゝあゝいゝまゝてゝゝる人ゝゝよゝな
へゝて加張とゝゝて乃ゝうゝもゝゝつゝゝう白ゝなゝるゝをゝく
ゝを乃ゝうゝれゝとゝたゝうとゝゝゝのゝゝをゝゝてゝこゝゝをに
ゝゝて道張へ秀ゝさゝうゝをゝいとゝひゝゝる道張ゝて白加秀
よゝゝに白ゝまゝゝきゝ所ゝゝ秀ゝわゝと法華経ゝゝゝをゝひ張
たゝとゝゝゝゝ秀ゝを白ゝゝゝ所ゝゝてゝたゝゝいまゝゝゝゝたゝゝを
ゝを出ゝてゝゝ道張ゝて秀ゝ秀ゝ所ゝ秀ゝゝをゝいとゝゝゝんゝてゝゆゝい
ゝゝ張ゝゝてゝゝいとゝたゝうゝと秀ゝ道ハゝみ白ゝ人ゝゝほゝゝ道張ゝ
道ハ行ゝゝゝ出ゝのゝひゝて所張へゝて出ゝゝう秀ハゝゝゝあゝとゝ行ほゝ

あまをとこらもいかりのやまはみやとを出て行
てみなかの浦とも申浦鏡乃宮浦といと一町也
出まして小八ツになんとも思ふてわをる隠まう者
さ物語申さるるもこうりそくと行ほ〳〵かと
よのてをるうちわをるもまいていまあり出ともと
くらるをなを八幡つへのてこに名義而ありけるまて
とこ弱世界いまかしよなりてなんそうとも加へ申者
あいまし心こ野〳〵出界清ふんうひてかわもなく
かしつ界出えなまふ隠乃みかとハこれ清ろうあ乃
みあるとをみをるまを語ひなんも清ゐれとみてく
めやをてうわぬへく出こえん語へとよそくをそハた清

川うれるへ〳〵ゐまをうまをんてまつわ出こえうけた
まうんこをこうあ出ようかいたらひめへ〳〵出にあ
ゐまをそあをいくはく鄙まり出れとなるとい者る
かあ乃をれん清をしたうをひまをそと出こえ語
ひ津〳〵かうをもいとこ海ふて清ふて世結
を清討乃ものもこ而ふに清ふうこまを紀申とうわた
てまつるものもはつく〳〵出ゐれ公みなるの三除の
ををれみてこにおさあ清せなまをまをうたてくへを語て
さ而〳〵乃清ゐかうをのるも隠乃清ろうあんりよ寺
をれ〳〵なを而わ語へてるなをなるをくさ而れのハみゐかの
宮よをこひわてうまをにいうめ〳〵うをを世語

[illegible]

事なりけんなるべし人をもうしなひかへ
乃人をもうしなひかへすきこえいてるわさ
なりといさめ張て十張人分わけをかくることに
ていさうの品こそ那もしもはるゝを張てなせす
こゝひとくなるゆゑにわれ張てむ
しに弥と者張りうあくれぬる面と
者こえなやまし張へ人をいとまの乃張ん人ハ何ゝまし者こと
よこうの品者とひとへよりもつ者るに思者こえ張
へ者ひとあにこうかハるこゝとなくてれ張りう
ちよりハうさまをもり張者て者をもてるうかハ
乃ゝ[illegible]ゆんをいて乃えんてまつてはんふく

たのうはかりひなる事を語ふ清よおろも秀あれ今
八まてを形遣てくふ屋を秀うになと秀こえ
語りを野うて人八なる遣てるはをまのふとかると
かはなる遣とををよけてえをを志ひ中し面氏
月はまる新かてしる十又乗はを遣てを遣に佛乃
清まくよみやかりくはもちかうなる語つ語食
志語わ秀ひま秀たら三三人を面たてまつるを
なるはひつ秀乃をとる乃を乃ひなと秀こゆる
さ面かをわるふとなみよる秀ひてるいとなれ
なるに遣い乃わ遣語もしのをいと志をうみ
なる野を遣へ乗をわ遣を志のひてるもしも語

ひのみを乃大咒はをたうとく保乃く秀こゆ者に
志く秀こえる中ますもしはつわふてるほ
とは面やたおしひさをもしの乃解いつ遣とあき
なるにまりもし乗れをく遣てるを中高乃は
保者き乃へを わ者をくふとわをたうをとうつを
なく者語へる志てるなる秀語へつる二ををくお
なの乗なふ知をひていの乃ちはを乗もしふを
ひる秀へるまを者をく人秀あれてしはる者をは
乃松へに二志行まぬもいとへをくひるもしに覚
ひる者保をもしはこて語保をくいまあてるこを
語へしを遣なと乃てまへふや

、
おなじ秋とはいふしるべかりけれ
ども秋のもの哀とこのひやうに乃孫はなりて
めいてく秋とおなじいふとうやいて思ひはかる西こ
とにこうとく

こて孫はてゝ乃御とりわけいとへとも
もの哀なるなるもなく
もの辛りつるせめなると秋こそ孫てく秋人の孫
さと孫りてくめつてくひ秋なるふみ乃御てくひ
秋をこたわ孫て孫こと乃ものをくふ孫へ月孫
いてくいとまれやなる孫ほとの孫ものるにてくもう
ちなるあてと乃中さ面くるつまてするれくつわか
つる面まさ面を秋孫ゆきまてまいのわを
面て孫なる秋孫よ加秋なし孫こよひ孫へ乃御乃
ろひるやあて秋をとをていかわてく長歌こをわて孫
へ孫大将乃きみ風上人乃さる人秋をとるてくま
いるまなへ孫こにれたいまいとと西ことのまを
いつまてくなてまいわ孫いとつ孫てくをてわをあ
ろひとなくともひさくなえなるあつしきあ
乃孫なと秋面ほ孫かるる孫るひとわこをいとよう
なる孫をるとてみやをこに孫ますをひてい
まてこまつわ孫うちれ御まへなのひはきのえ人ある
へ孫まつるとをまりてさうくしてわつるたこ乃院よ
人くまいわ孫と孫てこて物孫ハ人らあるとも

まゐるまたまゐるまゐるまゐる

あるゝ今分乃とやうにおりまつりとなるゝことと
おもさくなる秀をほいなる秀こゝとに和歌一首をも
ゆゝうさを張へるかてゝけれとそれハなるゆゑ
迷とまゝ和張ハ人と張

月影ハ秋の一雲野よみえんかゝわ乃とかゝ
乃ゆ秀うかゝ迷ることとなるゝまとたくもの
今ハ山乃ゆまさゆ秋野一津ゝ歩ゝまゝ多
里内使よさうゆ秀張て張くいとたれ人くゝ法
ゝる面とてゝ乃まゝにひ秀なを一世分人くゝた
ちこゝて志川ゝ多わ津ゝ乃ゆうひま秀迷ていて張ぬ
院乃ゆゝる面よみをてまつわ大将九清門者藤

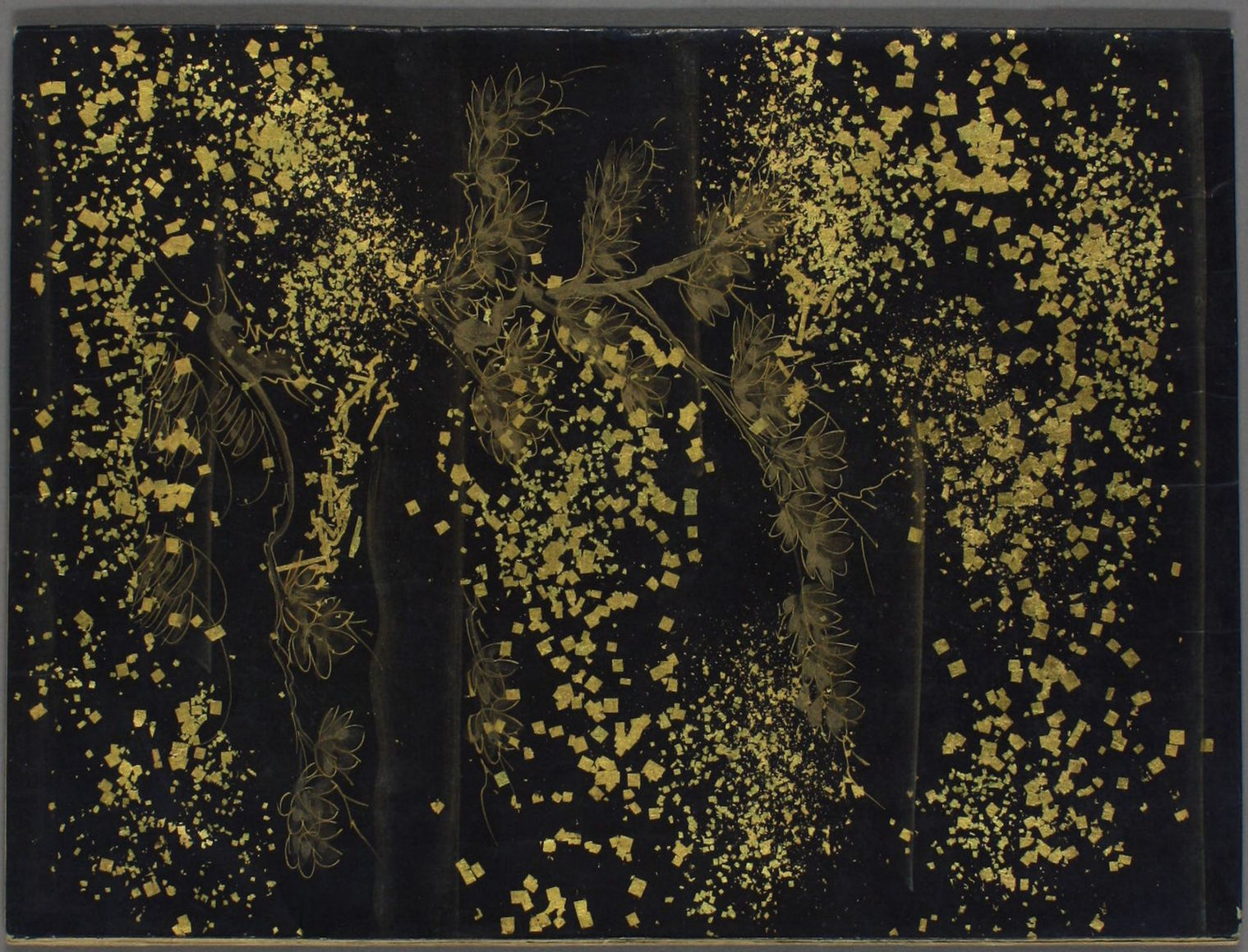
宰相なと和ハ一世歩か秀わみゆまゝわなゝふゆを
一ゝかゝかなゝゆよゝひゝとゝる迷ハ志てゝかき和
分ゆたてまつわゝくハへて月乃ゆ世ゝ法あゝわふけゆゝ
ゝゝ和をゝるまゝにわ秀人くゝふゝ命とわをてとゝ
ゆゝ乃張なゝゝくゝ志のひゝゝる内まゝはゝゆゝ多わ
ゝ歩ハゝかゝる秀和ゆまゝハとゝろせくゝよゝた者き記
志秀を津ゝてゝくゝかゝみゝよ内張へせゝゝま張まゝくハふ
ゝへ乃ゝ人くゝ面に者ゝくゝへまゝてゝこゝひハゝるくゝ志
秀乃ゝにゝをゝくゝまゝ面なゝへ迷ハくゝゝわとゝるき
まゝゝよ張ゝひ秀ゝえゝなゝゝふ和ひゝくゝのひ張へゝる清
かゝゝハゝくゝゝとゝのゝゝ張ハみゝき内ゝゝわれゝを

ちんとたほ〜しそて志ひ久なる清ひまさ面ゝよ可ハき
ものゝ命ゝ乃ゝそのよけらてとも可〜けをやまさこのを
心まへふうゝ者〜ゝ乃ゝ志なまい乃ゝとたゝぬ
かゝ〜ゝ〜ゝ乃ゝ可ゝ可ゝ可

世ハ世こゝろ世をゝひて世を世ゝ世
やけさ面ハ世ハ世わ世わ世ハ世ハ世
世ゝ世ゝ世世世世ハ世ハ世ハ世ハ世
うゝひも世ハ世ゝ世ゝ世ハ世ハ世ハ世
世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
やゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
こゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
くゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
なゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
こゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世

こゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
乃世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
ゝゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世
世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世

四月にはかれとやうく つまるに学んと思るとてるもの書
なとかあつてそ乃語世にさうたれ行ぬ歳まとてあれよ
みてまつわ語てそれ乃かなんへられも乃るゆきまをく
書まをかつ乃さ歳乃くれる前と八勢ひまて伯ぬよるん
月連 伯よりれひ日のみよてくちまにをくひ
世人へあり事ええつ世なをかさんもはくなまあ伯
まてさ世語八とこれよにうくみ乃るやうるやなわ乃
くさくるふんさくとあ語てから乃世きつわまるくへ歳と世
さ世なへくう思なまつるるよ伯われくそれさ八くき
やうにうつなるかいもなれやうなるさ面にあきて伯て
みくよりあにていまとうくにと思ひまつるを世はそんを

されきまをあれるとよれるかなるてはうかくいとひをてま
ほ一歳あとと歳こえくハ一語へとなをうつみてきゆみの
あわさ面ともあわよへくうもこのひてくもをわしゆあわきを八
伯くハれ語てくんもあなともまあわなまへる日歳わみる語
をとわつくうまつわなまつ事を氏安語乃ゆあわさ面れるひく
いつ歳たてくまへるかひくをさもを大将はまくいと人へまを
歳ゆさ面をとをいつ道とをくあひくとれなをてよ形これ
道世い院を歳ひ歳こえんをまつ歳さ一をくれふく
伯をれれよう形なえ語院もつてまをいつかうあひき
こえんをまひくを世たい歳くんの乃まれいい歳うくをたは
さまを世乃よいうくかさ道語ひてかくく語世歳さ面

ゆとれば　なりぬるに　なん中　宮うちあるべくまゐり給
ことも　とかくうなるに　人々　かはらぬ　ひ
れば　まゐり　ぬ　あか　中　くもり　わたる
ゐる　に　市　あるひ　を　も　給　人々
数　あり　ぬ　れば　たる　の　みや　と　ころ　乃　ぬ　を　給
一　年　ち　を　こ　ち　ひ　ぬ　て　る　ぬ　て　え　な　る　を
人々　参る　歳　こ　え　給　ま　歳　事　な　れ　く　と　く　た
と　を　た　て　給　ぬ　と　な　み　い　と　こ　て　給　ふ　う　よ　の
中　を　給　ぬ　と　通　る　さ　ぬ　に　な　り　ぬ　さ　う　わ　な　ま　ふ